

開花期が終わり、生理落果期となっています。
夏肥の施用や黒点病の防除、さらに極早生及び早生温州の着果量、肥大を確認して粗摘果を行いましょう！

1 令和6年1～5月の気象

本年の1～5月の気象を表1に示した。月平均気温は、1、2月は前年、平年より高く推移し、3月は前年より低く、平年並みに推移した。4月以降は平年より高く、前年並みに推移した。特に1、2月は平年より約2℃高く、前年より1月で2.3℃、2月で0.7℃高かった。

降水量は1月が平年より少なく、それ以外の月では平年より多かった。1～5月の合計降水量は804mmで、平年及び前年より多かった。

日照時間は、2、4月で平年より少なかった。5月は第1半旬で平年より多く、それ以外では平年並みもしくは平年より少なかった。1～5月の合計日照時間は827時間で、平年及び前年より少なかった。

表1 令和6年1月～5月の気象（館山アメダス）

月	半旬	平均気温 (℃)			降水量 (mm)			日照時間 (hr)		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1月		8.6	6.4	6.3	29	86	47	197	177	162
2月		9.1	7.0	8.4	106	82	130	133	155	151
3月		10.5	10.1	13.2	258	161	148	185	165	170
4月		16.6	14.5	16.5	184	156	135	133	179	207
5月	1	17.6	17.2	18.4	29	22	1	43	31	58
	2	18.4	17.7	18.3	19	24	41	27	30	35
	3	19.5	18.1	17.3	56	26	27	28	29	15
	4	19.1	18.6	20.8	52	25	39	32	30	39
	5	20.3	19.3	19.1	0	25	13	19	31	34
	6	21.4	19.8	20.0	72	31	25	30	36	25
5月平均/合計		19.4	18.5	19.0	228	153	145	179	188	206
1～5月平均/合計		12.8	11.3	12.7	804	638	604	827	861	895

2 樹の生育

暖地園芸研究所における本年の温州ミカンの発芽期及び開花期を表2に示した。

発芽期は、「日南1号」及び普通温州が4月1日、「興津早生」が4月2日であり、平年と比べ「日南1号」で平年並み、「興津早生」で5日、普通温州で11日早かった。前年と比べると「日南1号」で8日、「興津早生」で9日、普通温州で5日遅かった。

開花盛期は、「日南1号」で5月5日、「興津早生」で5月4日、普通温州で5月7日であり、平年と比べ「日南1号」で2日、「興津早生」で7日、普通温州で10日早かった。前年と比べると「日南1号」、普通温州で4日、「興津早生」で5日遅かった。

本年の着花量は、暖地園研では「興津早生」は比較的多く、普通温州では樹ごとにばらつきがみられた。

表 2 発芽期及び開花期（暖地園芸研究所）

品種	発芽期（月・日）			開花期（月・日）								
	本年	平年	前年	始期			盛期			終期		
				本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
日南1号	4.1	4.1	3.24	5.1	5.2	4.25	5.5	5.7	5.1	5.10	5.12	5.5
興津早生	4.2	4.7	3.24	4.26	5.7	4.24	5.4	5.11	4.29	5.10	5.17	5.6
普通温州	4.1	4.12	3.27	5.2	5.11	4.29	5.7	5.17	5.3	5.13	5.22	5.9

注1) 平年：直近過去30年間の平均値（「日南1号」は平成27年～令和5年の平均値）

2) 普通温州：「大津4号」と「青島温州」の平均値

3 6～7月の栽培管理

(1) 夏肥の施用

早生温州（「興津早生」など）、普通温州（「大津4号」、「青島温州」など）ともに6月上旬に有機配合肥料を施用する。基準量は窒素、りん酸、加里を10a当たり分量でそれぞれ、早生温州は5kg、7kg、7kg、普通温州は5kg、5kg、9kgとする。

(2) 摘果

摘果は粗摘果と仕上げ摘果の2回に分けて行う。1回目の粗摘果は、早生温州では6月下旬～7月上旬、普通温州では（樹勢が低下している場合のみ）7月上旬～中旬に葉果比10～15程度で行い、その後8月上旬～9月上旬（粗摘果の1ヶ月後）に葉果比25程度に仕上げ摘果を済ませる。着果の少ない裏年の樹では粗摘果は控え、仕上げ摘果から行う。仕上げ摘果の基準は、1果当り葉数で早生温州は25～30枚、普通温州は20～25枚である。

4 主な病気の防除

(1) かいよう病

かいよう病は、発芽前～落弁直後に防除を徹底する。多発園では、幼果実期の梅雨時期や台風前の追加散布を心がける。ただし、銅水和剤はマシン油乳剤、デランフロアブルとの近接散布による薬害が起りやすいので、銅水和剤散布後、2週間は散布時期をずらす。

(2) そうか病

そうか病は、通風不良で降雨後に乾きにくい場所や、窒素肥料が効きすぎている園で発生しやすい。通風を良くし、施肥を適切に行い、樹勢を良好に管理するように努める。多発園では、発芽後（新芽が1cm程度になった時）と落弁期での薬剤防除を徹底する。

(3) 黒点病

黒点病は幼果期から成熟期にかけて感染、発病する。発生源は樹上・園内及び周辺の枯枝で降雨等による水滴によって伝染するため、梅雨入り前に樹上の枯れ枝の除去や薬剤防除を行う。登録のあるジマンダイセン水和剤／ペンコゼブ水和剤の付着量は降雨のたびに減少するため、前回散布後の積算降水量が200～250mmに達したとき、または約30日後の再散布が推奨されている。

なお、表の数値は表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計は一致しない場合があります。

《 生育情報の発行元 》千葉県農林水産部生産振興課園芸振興室

《 生育情報の問合せ 》千葉県農林総合研究センター暖地園芸研究所 特産果樹研究室

電話 0470-22-2961

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>